



患者安全 Patient Safety

ICNの所信：

患者安全は、質の高い保健医療と看護の基本である。国際看護師協会（ICN）は、患者安全の推進には、保健医療専門職の雇用・研修・定着をはじめ、パフォーマンスの向上、環境安全、危機管理などの広範な活動が含まれるものと考えている。また、危機管理の中には、感染管理や薬剤の安全使用、医療機器の安全使用、安全な臨床実践、安全なケア環境、患者安全に関する科学的知見の集積及び、そのためのインフラストラクチャー整備などが含まれる。

看護師は、ケアのあらゆる局面において患者安全に取り組む。これには、患者をはじめとする人々にリスクとリスク低減方策について知らせること、患者安全の擁護、有害事象の報告などを含む。

正確かつ最新の健康情報の欠如は患者安全とケアの質にとって深刻な脅威である。ICNは、全ての保健医療提供者、患者及び市民に、エビデンスに基づく信頼性の高い健康情報を提供することによって、健康アウトカムは向上すると強く確信する¹。

リスクの早期発見は患者の傷害を防ぐカギであるが、その実現は、保健医療システムにおいて患者とケア提供者の間で信頼、正直さ、誠実及び開かれたコミュニケーションなどの文化が維持されるかどうかにかかっている。ICNは、個々のケア提供者への非難・中傷ではなく、透明性と報告、そして、有害事象にまつわる人的要因とシステム要因への対応という考え方に基づく、システム全体にわたるアプローチを積極的に支持する。

ICNは、適切な訓練を受けた人材の不足によって、患者安全および保健医療の質が大きく脅かされていることを強く懸念している。今日の世界的な看護師不足は、こうした脅威の最たるものである。また、患者安全とケアの質に脅威をもたらす要因として、保健医療従事者の偏在、保健人材戦略の欠如、医療の場に対する資源投入と維持管理の不十分さ、一部の国や地域の保健医療費の削減が挙げられる。

ICNは、看護師と各国看護師協会（NNAs）が以下の点について責任を負うものと考えている：

- 患者と家族に潜在的リスクを知らせる。
- 有害事象を、適切な機関に迅速に報告する。
- ケアの安全性と質のアセスメントにおいて、積極的な役割を果たす。
- 患者及び他の保健医療専門職とのコミュニケーションを改善する。
- 働きやすい実践環境を支持する。
- 厳格な感染予防・管理プログラムを促進する。
- 過誤を最小限に抑えるため、治療指針やプロトコルの標準化を求めてロビー活動を行う。
- 薬剤師や医師等の専門職団体と連携して、医薬品のパッケージとラベルの改善を図る。

- 安全なケアを提供するための適正な人員配置基準、適切なスキルミクス及び十分な物的資源を得るためにロビー活動を行う。
- 教育や研究など患者安全を向上する方策を支援する。
- 有害事象の報告と患者と家族への情報公開に関する明確な方針の開発と実施に関与する。
- 全国的な報告制度と連携し、有害事象を記録・分析し、そこから教訓を得る。
- 患者安全の領域で、卓越性のベンチマークとなる保健医療従事者の特性を認証する仕組み（認定制度など）を開発する。

背景

保健医療における介入は人々に益することを目的として行われるが、保健医療に関連する過程的、技術的及び人的要因が複雑に絡み合った結果として、過誤や有害事象の発生というリスクが随伴する。有害事象は、意図せず患者に害を及ぼす事象であり、患者の本来的な病状というよりも、患者に提供されたケア、及び/または、サービスに関連する事象である²。患者安全に対する脅威として多いものは、誤薬や院内感染、転倒・転落、放射線の過量照射、偽造薬の使用などである。

重大な有害事象にはヒューマンエラーが何らかに関与しているが、通常、システム側に内在する要因があり、それを適切に処理していれば過誤の発生は予防できるか、それらの発生の可能性を減少できるとされる。患者安全の報告制度の基本的な役割は、保健医療システムの不具合から学ぶことによって、患者安全を推進することである³。

不十分な施設内人員配置基準が、患者の転倒・転落あるいは褥創、誤薬、院内感染、再入院率等の有害事象の増加と相関していること、そして、これらが入院日数の増加及び院内死亡率の上昇につながっていることを示すエビデンスが増加しつつある⁴。職員不足及び、意欲欠如や技術・技能の不足によるパフォーマンス不良も、患者安全を左右する重要な要因である。

保健医療の質が劣悪であると、多くの有害事象が発生し、保健医療費支出に深刻な影響を与える。

2002年採択

2012年改訂

関連 ICN 所信声明：

- 「看護師」という名称の保護
- 看護規制
- 看護業務の範囲
- 看護補助者
- 看護師の労働安全衛生
- 患者への情報提供

関連 ICN 出版物：

- 看護事情ファクトシート：Medication errors
- 看護事情ファクトシート：Adverse Events Following Immunization(AEFI)
- 看護事情ファクトシート：First do no harm: Auto-disable syringes for immunization safety
- 看護事情ファクトシート：ICN on selecting safer needle devices
- 看護事情ファクトシート：Immunisation safety: An essential nursing function
- 看護事情ファクトシート：Immunisation Safety: Safe Waste Disposal Practices Save Lives
- 看護事情ファクトシート：Infection Control
- 看護事情ファクトシート：Nurses: Patient ratios
- 看護事情ファクトシート：ICN on disinfectants and sterilants
- 看護事情ファクトシート：Counterfeit Medical Devices
- WHPA ファクトシート：Patient Safety
- WHPA ファクトシート：Medication Use and the Ageing Population

2012 年（公・社）日本看護協会訳

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">* 文書中の「看護師」とは、原文では nurse(s)であり、訳文では表記の煩雑さを避けるために「看護師」という訳語を当てるが、免許を有する看護職すべてを含むものとする。* ICN 所信声明の著作権は、国際看護師協会(ICN)にあり、ICN の許可のもとに、(公・社) 日本看護協会が日本語訳を作成しました。許可の無い商業目的での使用を禁止します。 |
|---|

1 2015 年までにすべての人に保健医療情報を (Healthcare Information for All by 2015:HIFA2015) . 2006 年に開始した世界的キャンペーン：2015 年までに全世界の全ての個人が知識のある保健医療ケア提供者へのアクセスを. www.hifa2015.org

2 カナダ患者安全研究機関 (2008 年) カナダ情報公開ガイドライン
www.chirofed.ca/english/pdf/CPSI_Canadian_Disclosure_Guidelines_EN.pdf.

3 患者安全のための世界同盟 (2005 年) 有害事象の報告・学習システムのための WHO ドラフトガイドライン 情報分析から実のある行動へ
www.who.int/patientsafety/events/05/Reporting_Guidelines.pdf

4 Clarke SP & Aiken LH (2008). An international hospital outcomes research agenda focused on nursing: lessons from a decade of collaboration. Journal of Clinical Nursing, 17(24),3317.